

I. 法人の概要

1. 学校法人の沿革

- 昭和 26 年 6 月 愛知県より菊武タイピスト学校（現：菊武ビジネス専門学校）設置認可
- 昭和 28 年 2 月 愛知県より学校法人高木学園（現：菊武学園）設立認可
- 昭和 37 年 4 月 守山女子商業高等学校（現：菊華高等学校）開設
- 昭和 40 年 4 月 名古屋女子商科短期大学（現：名古屋経営短期大学）開設
- 昭和 43 年 4 月 守山女子商業高等学校に通信制課程開設
- 昭和 44 年 4 月 菊武幼稚園開設
- 昭和 63 年 4 月 名古屋女子商科短期大学に経営情報科開設
- 平成 4 年 4 月 守山女子商業高等学校を菊華高等学校と改称し、全日制課程普通科開設。
- 平成 7 年 4 月 ビジネス教養専門学校エクセレンス開設
- 平成 12 年 4 月 名古屋産業大学環境情報ビジネス学部開設
- 平成 16 年 4 月 名古屋産業大学大学院前期（修士）課程（環境マネジメント研究科）開設
名古屋産業大学環境情報ビジネス学部人間環境マネジメント学科増設
- 平成 19 年 4 月 名古屋経営短期大学ビジネス実務学科・人間情報学科の募集を停止し、2 学科を統合した形の総合ビジネス学科を開設。
名古屋産業大学大学院後期（博士）課程（環境マネジメント研究科）開設。
名古屋経営短期大学子ども学科開設。
- 平成 20 年 4 月 名古屋経営短期大学健康福祉学科開設。
- 平成 23 年 4 月 稲葉保育園開設（尾張旭市指定管理事業）
菊華高等学校にスポーツアクトコース開設
- 平成 24 年 4 月 ビジネス教養専門学校エクセレンスの校名を変更
専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院に改称する。
- 平成 26 年 4 月 名古屋経営短期大学総合ビジネス学科の募集を停止し、未来キャリア学科開設。
- 平成 27 年 2 月 菊華高校通信制課程普通科（単位制）開設認可

2. 設置する学校の学部、学科および各学校の入学定員、現員数

平成 26 年 4 月 1 日現在

学 校 名	学部・学科・課程名等	入学定員	収容定員	入学者数	現員数
名古屋産業大学大学院	環境マネジメント研究科	前期課程 10 人	20 人	12 人	23 人
	環境マネジメント専攻	後期課程 3 人	9 人	0 人	3 人
名古屋産業大学	環境情報ビジネス学部 環境情報ビジネス学科	190 人	860 人	114 人	514 人
名古屋経営短期大学	未来キャリア学科	100 人	100 人	36 人	36 人
	総合ビジネス学科	募集停止	135 人	—	63 人
	子ども学科	80 人	200 人	58 人	135 人
	健康福祉学科	60 人	120 人	33 人	90 人

学 校 名	学部・学科・課程名等	入学定員	収容定員	入学者数	現員数
菊華高等学校	全日制課程情報ビジネス科	270人	810人	70人	190人
	全日制課程普通科	90人	270人	254人	730人
	通信制課程商業科	230人	690人	185人	506人
菊武幼稚園		69人	209人	77人	212人
菊武ビジネス専門学校	商業実務専門課程	80人	80人	14人	14人
	商業実務高等課程	240人	720人	185人	506人
専門学校名古屋リエンジニアリング &フラー・ビューティ学院	商業実務専門課程	200人	360人	159人	292人
	文化教養専門課程	募集停止			
合 計		1,622人	4,583人	1,197人	3,314人

3. 役員に関する事項

当学園の平成27年3月31日現在の選任区分別理事及び監事は以下のとおりです。

寄附行為の理事定数は8~11人、監事定数は2~3人で、欠員はありません。

- 1号理事（教職員）：伊藤 雅一、山岸 鳴門、馬淵 正雄
 2号理事（評議員）：井元 明正、渡邊 哲郎
 3号理事（学識経験者）：高木 弘恵、高木 清秀、吉田 雅樹、岡谷 篤一
 山口 淳

監 事：青木 修（常勤）、那須 國広（非常勤）、澤田 忠男（非常勤）

なお、現在1号理事の馬淵正雄氏が、平成27年3月31日をもって菊武ビジネス専門学校校長を辞任されることに伴い、寄附行為第6条第2項の規定により1号理事の職を退き、平成27年3月19日の理事会で後任校長として選任された鈴木悦子氏が寄附行為第6条第1項の規定により平成27年4月1日付けで1号理事に就任予定です。

4. 評議員に関する事項

当学園の平成27年3月31日までの選任区分別評議員は以下のとおりです。

寄附行為の評議員定数は、19~24人で、欠員はありません。

- 1号評議員（法人職員）：高木清秀、山口 淳、二宮邦夫、内山哲治
 水野武文、杉村邦彦、神谷 篤、天野雪代
 2号評議員（学園卒業者）：浅井明己、大石清美
 3号評議員（学識経験者）：高木武彦、高木重幸、井元明正、池田英二、竹内隆史 平本晴康
 渡邊哲郎、高木秀典、高木弘恵、原田隆史、大嶋啓介
 市橋 豊、杉山寿美

5. 教職員・その他に関する事項

現在、菊武ビジネス専門学校校長の馬淵正雄氏が、平成27年3月31日をもって校長職を辞するに伴い、後任として同専門学校校長補佐の鈴木悦子氏が平成27年4月1日付けで新校長に就任する予定です。

II. 事業の概要

1. 平成 26 年度の入学者数

平成 26 年度の入学者数は、大学は大学院も含めて 10 名の微増、短大では 31 名の減、高校（全日制・通信制）で 26 名の減、幼稚園は 5 名の増、菊武ビジネス専門学校は 10 名の減、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院は 4 名の増で学園全体の入学者数としては、48 名の減となりました。

平成 26 年 4 月の在籍者数は、大学は卒業生数が入学者数を上回り在学生数で 92 名の減、短大も 13 名の減となりましたが、高校（全日制・通信制）で 138 名の増、幼稚園で 3 名の増、菊武ビジネス専門学校で 44 名の増、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院で 47 名の増となり、学園全体の在学生総数は前年度より 127 名多い 3,314 名となりました。

2. 平成 26 年度のその他の事業概要

【学園本部】

26 年度は、高等学校通信制課程に単位制の普通科を開設する準備を進める傍ら、4 月「各部門の新年度の重点取組み」、6 月には菊華高校に入学したボクシング世界チャンピオン高山勝成選手を招いての「講演会及びヒルズ見学会」、9 月「～愛情教育のための～心と体で感じるコミュニケーション」のセミナーとグループ実践ワーク、1 月には各学校で課題となっていた「発達障害者の対応」についての講演と「ぜんざいを食べながらの懇親会」、3 月の「教職員の表彰と懇親会」は中止となりましたが、計 4 回の学園研修を実施し、8 月には、メインイベントである「菊武夏まつり」を実施しました。

【名古屋産業大学】

大学では、25 年度の入学者数激減という厳しい状況を踏まえ、(1)大学の特色や実践教育の動きを具体的に把握し、高校生やその保護者、高校関係者に説得力のある説明を行うこと、(2)入試広報重点校との結びつきを強化することを主眼とした高校訪問を行うこと、(3)高校生に直接訴える WEB サイトや動画配信を充実することの 3 点を最重点に置いた入試広報活動を展開すると同時に、休退学者の減少に向けた取り組みを強化するため、(1)単位修得が少ない学生のサポート強化、(2)学生サポーターによる履修登録等のピアサポートの導入、(3)学生カルテとポートフォリオを活用した学修支援の充実、(4)スポーツ学生を対象とした出身校の監督との情報交換、(5)こころの問題に対する専門医との相談体制づくり、(6)学業とアルバイトの両立支援を行うアルバイトプロジェクトの活性化などの新たな取り組みに着手しました。

また、26 年度よりビジネス・トレーニングプログラムの中心となる長期・短期インターンシップがスタートし、企業インターンシップとしてはサントリービバレッジサービス、コニックス、石川マテリアル、フォナックスサーバ、尾張旭市役所などで、農山村インターンシップとしては三重県津市三杉町、長野県阿智村で、名産大 GSB 学内インターンシップとしてはバイテック、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング、ウェストボックスなどでインターンシップが実施され、海外インターンシップの参加促進及び学生支援のために日本学生支援機構の「トビタテ！留学

JAPAN」プログラムへ3名の学生に申請を促し、うち1名（山門正宜^{やまかどまさのぶ}）が採択され台湾へ留学をしました。

また、これらの取組を支援するため、文部科学省補助事業である産業界ニーズ事業テーマA(教育改善)、テーマB(インターンシップ取組強化)の2件に申請し、採択を受け、並行推進の取組を行いました。

課外活動の面では、8月の世界ユースボウリング選手権大会でボウリング部吉田健大選手(3年)は全日本ナショナルチームのメンバーとして戦い、4人チーム戦で3位に入る大活躍をしました。11月の全日本大学選手権大会ではボウリング部男子が3年連続4度目の日本一になりました。2月に行われた第46回全日本大学個人ボウリング選手権大会では4年生の渡邊玲史選手^{わたべれいじ}が3位入賞とハイゲーム賞を獲得しました。また、ウェイトリフティング部は11月、大阪での全日本大学対抗選手権大会第2部で2位となり、4年ぶりに1部昇格を決めました。

【名古屋経営短期大学】

短大では、去年に引き続き4月に旭高原少年自然の家で新入生オリエンテーション合宿を行い、未来キャリア、子ども、健康福祉の3学科の学生がレクレーションなどを通じ学科の枠を飛び越えて交流し、互いに鍛え合う仲間作りをしました。

5月には、Keieitan スポーツ大会、(株)てっぺん代表取締役 大嶋啓介氏講演会、健康福祉学科国際福祉健康産業展見学と学内合同施設説明会、総合ビジネス学科検定王表彰など多彩な行事が行われました。7月には、4号館調理教室を使って留学生に教員・学生の手作り料理を振舞う「留学生歓迎会」が行われました。9月には、韓国での海外研修に14名の学生(観光ビジネスコースの学生が中心)が参加。Keieitan ボランティア隊が東日本大震災の被災地で「支援活動とボランティアの学習」に取り組み、夏季インターンシップが愛知県庁、瀬戸市役所、ツーリスト愛知、名古屋大学医学部病院、ANA グランコートホテル、名古屋経営短期大学などで行われました。10月には、例年のように稲葉保育園児と子ども学科1年生がハロウィンの交流を楽しみました。11月には、短大50周年式典が尾張旭文化会館で開催されました。12月には、今年も地元の親子を招いたクリスマス会が文化センターで開かれました。3月には、子ども学科の学生が教員に引率され「海外多文化保育研修」で台湾を訪れました。

26年度も就職などでよい効果を上げることを期待して「資格・検定」の取得を奨励し、総合ビジネス学科・子ども学科・健康福祉学科の3学科共就職率100%を達成しました。

【菊華高等学校】

1962年の創立以来50年を超える歴史と実績を踏まえ、さらなる飛躍をするため「活気ある学校・元気な学校」を目指すことに変わりはありませんが、3学年が全て揃うスポーツアクトコースのより一層の周知を図ると共に各コースの魅力を十分発信して募集活動に力を注ぐとともに、生徒と保護者に絶賛してもらえる教育を実現すべく以下の10項目を具体的目標として教職員が一致団結し目標に取り組みました。その他、特に「いじめ問題」については誤った対応を取らないよう細心の注意を払った生徒指導に心掛け、対応した内容など経過がわかる資料作りと教員間の連携を密にする体制作りに取り組みました。具体的目標とした10項目は次のとおりです。

- (1) 学力向上と教員の授業力向上、わかる授業の研究と実践に励む
- (2) 退学者の減少
- (3) 基本的な生活習慣の徹底（時間の厳守、遅刻・欠席の減少）
- (4) 挨拶の励行と正しい制服の着こなし
- (5) 学校の魅力を最大限 PR する募集活動
- (6) 進路未定者の削減（進学・就職率 100%を目指す）
- (7) クラブの活性化と強化及び所属生徒の増加
- (8) 体罰と思われる行為の禁止
- (9) 情報ビジネス科での資格取得の増強
- (10) 「いじめ」の早期発見と撲滅

クラブの活性化と強化に取り組み、6月キクタケスポーツヒルズにボクシング練習場を新設。新入生でボクシング世界王者の高山勝成選手の練習パートナーで元 WBO アジア太平洋スーパーバンタム級暫定王者の山口賢一氏を外部顧問とし、部員 8 人でボクシング部を本格的にスタートさせました。高山勝成選手は、12月31日に世界チャンピオン統一戦に勝利し、WBA,WBC,WBO,IBF の世界主要 4 団体制覇を成し遂げる日本人初の偉業を達成しました。7月箏曲部が全国大会出場（茨城県牛久）、演劇部が中部日本高等学校演劇名古屋地区大会で優秀賞を獲得し県大会出場を決め、ソフトボール部が名古屋市選手権で 3 位、名古屋市民スポーツ祭でも 3 位になりました。ダンス部は神戸で行われた第 27 回全日本高校・大学ダンスフェスティバルに出場しました。吹奏楽部も愛知県吹奏楽コンクール名古屋地区大会に出場し、プライマリーの部銀賞を得ました。8月には恒例の「中学生将棋大会」を開催大勢の参加を得ました。9月には、陸上部が砲丸投げ（2年女子）、3,000m障害（2年男子）、走り幅跳・三段跳（2年女子）で県大会に出場し、三段跳（2年女子）は東海大会への出場を決めました。10月には、ソフトテニス部が名古屋北地区新人大会で団体優勝し、県大会ではベスト 4 に入りました。11月には、「税金の作文」で 3 年島袋マリアが北税務署長賞を受賞、その様子がケーブルテレビ（そらまめ）で放送されました。12月には SKE のメンバーである 3 名の生徒が NHK 紅白歌合戦に出演しました。1月にはスケート部の鈴木花歩選手と山田拓夢選手がインターハイに続き国体にも出場しました。

【菊武ビジネス専門学校】

26 年度も、「安心・安全・笑顔」の学校づくりと入学者確保に全教職員一致団結して全力投球で渉外活動に臨む体制づくりに取り組みました。

26 年度は、ビジネス情報科の完成年度であるため、これまで以上に 3 級以上の検定合格（資格取得）に力を注ぎ、多数の合格実績を上げ、就職に強いイメージづくりに取り組みました。

5 月には例年のごとく 1 年生オリエンテーション合宿、2 年生校外学習（長島スパランド）、3 年生校外学習（長島スパランド）を実施しました。6 月には専門課程の証券ビジネス科をキャリアウーマン養成科に改組する準備を始めました。7 月には 1 号館 2 階女子トイレを洋式化。ウィルあいち大ホールで映画鑑賞会を実施しました。8 月につぼんど真ん中祭りと菊武夏祭りで教員・生徒約 140 名が演舞をしました。10 月には、専門学校新聞社主催「私の仕事」作文コンクールで、今年度も団体優秀賞を受賞しました。

課外活動の面では、5月一^{いちむらこうき}村洸輝選手が県ウェイトリフティング競技会で準優勝に輝き東海大会への出場を決めたほか、瀬戸市で開かれた「わかしゃち国体記念杯」でも3位入賞しました。10月愛専各主催の県卓球大会高等課程の部個人戦で1~4位を独占し、12月の全国専門学校卓球選手権大会に出場し、伊藤^{だいち}大地選手が男子シングルスで優勝、渡辺^{たくみ}拓海選手が3位に輝きました。また、スケート部の高野^{こうき}晃生選手がインターハイ出場を決めました。1月名古屋市で開かれた「私学商業実務競技大会」で今年もワープロ部門で準優勝に輝きました。

【専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院】

26年度も、①学生募集の有利化を図るための早期内定（数値目標：100%）に導く就職指導、②「美・食・健康」業界へのアプローチと「企業間連携」の仕組みの構築、③学科別インターシップの推進、④学科に即したアルバイト先の確保と支援、⑤「講師会」による就職先の確保及び就職活動の支援、⑥新規求人開拓及び本校支援企業への訪問活動 に取り組みました。

6月には青空ウェディング in モリコロパークが開催され、ブライダル科の学生にウェディングの実践を学ばせる模擬結婚式とドレスショーを行った他、「ガーデンテラス東山」、「クレールベイサイド」でも模擬結婚式・披露宴を行いました。7月には「アールベルアンジェ」で模擬結婚式・披露宴を行いました。8月には「ピアンカーラ」で模擬結婚式・披露宴を行った他、全日本ブライダル協会東海支部ブライダルコンペティションにおいてブライダル科の学生がグランプリを受賞し、日本エステティック協会主催の「エステティックコンテスト」北陸・中部地区大会ではトータルビューティ科の学生が3位に入賞しました。9月には校内模擬挙式とドレスショーを行いました。11月には本物の結婚式を学生たちがプロデュースした他、技能五輪にもフラワー装飾部門と造園部門で参加しました。12月にはリゾナーレ研修と卒業旅行を兼ねたイギリスの姉妹校リトルカレッジ訪問を行いました。2月には「本物の結婚式」のお手伝い、「ディズニーおもてなし研修」、ナディアパークでの卒業作品展を行いました。

【菊武幼稚園】

「自信をもって小学校に進学できる子」を育てるため、〈感動ある行事の実現〉に取り組みました。5月には春の親子遠足、6月避難訓練・交通安全指導、ふれあい七夕まつり実施、10月運動会、いもほり、春日井市民パレードへの参加、秋の遠足を実施、11月に幼年消防クラブの発表、12月に生活発表会とクリスマス会を開催、1月新年子ども会、2月「ふれあい参観」（作品展・お店やさんごっこ）を実施し、3月ひなまつりの集いを実施しました。

【稲葉保育園】

「よく遊ぶ元気な子」を育てるため、〈自然とふれあい、元気になる遊び〉に取り組みました。

26年度も園児達の「ふれあい球遊び（サッカーボールで遊ぼう）」と「お花で遊ぼう」をほぼ毎月実施、5月は子どもの日を祝う会、緑のカーテン種まき、6月、7月は短大子ども学科と連携した「泥んこ遊び」と七夕制作、8月蟬とりと粘土遊び、9月地域のお年寄りとの「ふれあい会」、10月稲刈りと芋掘りをし、11月におにぎりパーティーと焼き芋パーティー、12月にクリスマス会、1月には、地元のお年寄りの指導で凧作り、2月節分会と1年間よく遊ばせました。

3. 平成 26 年度の主な契約

- 名古屋産業大学：バッティング練習場新設工事請負契約、
 スクールアグリーメント購入契約、
 出欠情報取扱システム定額保守契約
 ヒルズサッカー場照明工事請負契約
- 名古屋経営短大：242PC 教室機器買取契約
- 菊華高等学校：野球部トレーニング室土間工事契約、新教室教具・校具購入契約
 アクトコース音響機器購入契約、学校案内印刷請負契約、
 ボクシング練習場設置工事請負契約第1グラウンド駐輪場工事請負契約、
 トイレ改修工事請負契約、野球部グラウンド放送・審判室増築工事請負契約
- 菊武幼稚園：通園バスリース契約
- 菊武ビジネス：2MPC リース契約、校具購入契約、1号館2F トイレ改修工事契約
- N W F B：校用車リース契約、メイクルーム新設工事契約、

III. 財務の概要

1. 経年比較

当年度の決算について、前年度決算と比較しながら若干の説明を付してその概況をご報告いたします。なお、金額は千円未満を四捨五入して示しています。

(1) 資金収支計算書

(資金収入の部)

(単位：千円)

科 目	25 年度決算	26 年度決算	差 異	
学生生徒等納付金収入	1,780,384	1,783,914	3,530	学園全体の在籍者数は増えましたが、単価の高い学校での在籍者数減による収入減と相殺され微増。
手数料収入	28,016	25,496	△2,520	
寄付金収入	16,163	12,402	△3,761	
補助金収入	676,802	687,389	10,587	国庫補助金は大学で在籍者数が減り、収容定員充足率が下がったため減少。地方公共団体補助金は高校の耐震化補助金はなくなったが、在籍者増加等で国庫補助金減少分の倍近く増加。
資産運用収入	12,608	15,296	2,688	
資産売却収入	49,350	237	△49,113	
事業収入	39,853	37,333	△2,520	
雑収入	112,141	28,483	△83,658	今年度は、有価証券売却がなく大幅減少しました。
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	433,552	434,224	672	
その他の収入	359,957	304,407	△55,550	定年退職者が少なく、退職金財団よりの交付金が大幅減少。
資金収入調整勘定	△581,025	△489,495	91,530	
当年度資金収入合計	2,927,801	2,839,686	△88,115	
前年度繰越支払資金	1,146,826	1,361,616	214,790	前期末未収入金収入（特に退職金財団交付金）が少なかったため減少。
収入の部合計	4,074,627	4,201,302	126,675	

(資金支出の部)

(単位：千円)

科 目	25 年度決算	26 年度決算	差 異	
人件費支出	1,730,213	1,643,443	△86,770	職員人件費が若干増加したが、それを大きく上回る退職金支出の大幅減少が有って人件費は減少。
教育研究費支出	524,150	465,756	△58,394	
管理経費支出	192,885	212,596	19,711	
借入金等利息支出	4,530	3,660	△870	修繕費支出 29 百万円減、賃借料支出 10 百万円減その他多くの科目で経費節減努力によりトータルで減
借入金等返済支出	184,761	151,851	△32,910	
施設関係支出	16,049	40,793	24,744	学生・生徒募集の激化から広報関係支出で 18 百万円増、短大 50 周年記念事業費支出 7 百万円あって、その他経費節減努力もトータルで増加。
設備関係支出	73,676	37,667	△36,009	
資産運用支出	100,911	50,000	△50,911	
その他の支出	118,082	179,779	61,697	スポーツヒルズ関係の建物・構築物の若干の投資あって増加。
資金支出調整勘定	△232,245	△59,845	172,400	
当年度資金支出合計	2,713,012	2,725,700	12,688	大学での新規取得が少なくなりましたのでその分減少。
次年度繰越支払資金	1,361,615	1,475,603	113,988	
支出の部合計	4,074,627	4,201,303	126,676	

(2) 消費収支計算書

消費収支計算について資金収支計算と重複する部分は省略し、資金収支計算で説明していない部分の説明を加えてその内容をご報告いたします。

(消費収入の部)

(単位：千円)

科 目	25 年度決算	26 年度決算	差 異	
学生生徒等納付金	1,780,384	1,783,914	3,530	入学検定料の減免が増え減少。
手数料	28,061	25,541	△2,520	
寄付金	20,827	13,757	△7,070	一般寄付金が減少。
補助金	676,802	687,389	10,587	
資産運用収入	12,608	15,296	2,688	有価証券の配当金収入が増加。
資産売却差額	0	237	237	
事業収入	39,853	37,333	△2,520	受託事業収入が減少。
雑収入	112,311	28,605	△83,706	
帰属収入合計	2,670,846	2,592,072	△78,774	
基本金組入額合計	△128,092	△106,457	21,635	
消費収入の部合計	2,542,754	2,485,615	△57,139	

(消費支出の部)

(単位：千円)

科 目	25 年度決算	26 年度決算	差 異
人件費	1,735,046	1,664,558	△70,488
(退職給与引当金繰入額)	(66,658)	(41,080)	(△25,578)
教育研究経費	780,463	727,628	△52,835
(うち奨学費)	(166,000)	(159,769)	(△6,231)
(うち減価償却費)	(254,891)	(261,499)	(6,608)
管理経費	223,114	242,066	18,952
(うち減価償却費)	(30,147)	(29,383)	(△764)
借入金等利息	4,530	3,660	△870
資産処分差額	6,826	3,611	△3,215
徴収不能引当金繰入額	380	208	△172
徴収不能額	0	471	471
消費支出の部合計	2,750,359	2,642,202	△108,157

教員人件費は 4 百万円の減も職員人件費は 20 百万円増加。
退職金支出が 61 百万円、退職給与引当金繰入額が 21 百万円減少。

外国人留学生の入学抑制で減少。

施設資産増加が有って増加。

借入金返済進行で減少。

車輛処分が無くなった分減少。

(3) 貸借対照表

貸借対照表について、前年度末からの増減の主なものの説明を付してご説明いたします。

科 目	25 年度決算	26 年度決算	差 異
資 産			
固定資産	13,302,352	13,086,318	△216,034
うち有形固定資産	11,165,924	10,950,864	△215,060
その他の固定資産	2,136,428	2,135,454	△974
流動資産	1,794,449	1,724,994	△69,455
合 計	15,096,801	14,811,312	△285,489

有形固定資産は更新取得が多く新規取得が少なかったため、減価償却が進み簿価減少。

県事業財団からの新規借入がなくなったため未収入金となっている償還補助金の受入れによる未収入金の減が 183 百万円あり現預金等の増加を上回る。

科 目	25 年度決算	26 年度決算	差 異
負 債			
固定負債	817,577	697,265	△120,312
流動負債	875,587	760,539	△115,048
計	1,693,164	1,457,804	△235,360
基 本 金	17,493,451	17,599,909	106,458
消費収支差額の部合計	△4,089,814	△4,246,401	△156,587
合 計	15,096,801	14,811,312	△285,489

長期借入金△133 百万、退職給与引当金 21 百万、長期未払金△8 百万。

今年度は期末退職者（退職金は翌月払）が昨年より少なかったため未払金が△106 百万減、短期借入金 19 百万減、預り金等 10 百万増で合計 115 百万減少しました。

1号基本金 106 百万のみの増加です。

(参考)

正 味 資 産	13,403,637	13,353,508	△50,129
---------	------------	------------	---------

※ 正味資産＝資産－負債（＝基本金＋消費収支差額）

減価償却額の累計額	6,469,460	6,730,848	261,388
-----------	-----------	-----------	---------

借入金の状況

当学園の借入金は下表のとおりです。22年度より愛知県私学振興事業財団より新規の授業料軽減借入をすることはなくなり、菊武ビジネス専門学校の授業料軽減借入金は償還を済ませましたが、菊華高校は、授業料軽減借入金として¥149,672,254、施設設備整備費借入金として¥23,406,000 合計¥173,078,254 の借入残を有しております。しかし、この授業料軽減借入金及び施設設備整備費借入金は、償還に要する財源を愛知県から授業料軽減借入金償還補助金及び施設設備整備費借入金償還補助金として全額補填を受けることになっていますので学園としての返済負担は発生しないものです。

(借入金明細表)

(単位：千円)

借入先	25年度末残高	26年度末残高	増減	摘要
日本私立学校振興・共済事業団	300,000	240,000	△60,000	キクタスポーツビルズ取得資金他
愛知県私学振興事業財団	264,929	173,078	△91,851	愛知県より全額補填あり
合計	564,929	413,078	△151,851	

2. 学校債の状況

当学園は、学校債を発行いたしておりません。

3. 寄付金の状況

当学園に対する寄付金は25年度20,827千円でありましたが26年度は13,757千円となりました。現物寄付が3,300千円減、一般寄付が4,010千円減、特別寄付が250千円増と特別寄付を除き現物寄付も一般寄付も前年度より減少し、合計で7,070千円減少しました。

IV. 決算期後に生じた学校法人の状況に関する重要な事実

該当する事実はありません。

V. 対処すべき課題

「2018年問題を控え、年々厳しくなる学生・生徒・園児募集にどれだけ成果を挙げられるか？」言い換えれば「各部門が収入を安定的に確保し自立すること」が対処すべき最優先課題であることに変わりありません。特に大学・短大で入学者を確保することが喫緊の課題です。